

# わんぱく学園ニュース

平成17年 6月号 No114

蕾みの頃は花びらを螺旋状(らせんじょう)に巻き、それがゆるむと甘い香りを放ち、咲き始めには殊(こと)に浮き立つばかりの白さをもった花…。そう…香気ある純白の梔子(くはしの)の花が咲く6月——。

昨年は11年振りに6月を待たずに梅雨入りしたことを、ふと思い出しました。田園に水がひかれ、夕方ともなるとあちこちから蛙の楽しそうな鳴き声が今年も聞こえます。その声を耳にすることに田舎の贅沢を感じる私です。

さて、4月に入ったある時、私に1本の電話が入りました。「今年のショップ“みずわ”は、いつからですか？」と。ある新聞社の方から、思いがけずこんな嬉しいお尋ねを受けました。嬉しかったですねえ～。一昨年そして昨年5月のゴールデンウィーク3日間を利用して『障害者雇用と生きがいつくりの場を自らの手で』つくり出そうと企画した、ショップ「みずわ」の開店を心待ちにして下さっていたことにうれしさを、いや、励ましの言葉をかけていただいたことと受け止めました。

ボランティアの方そして障害者をもつ私たち14名は、今年も5月3日(火)～5日(木)の3日間穴道湖公園多目的棟を利用し、今回三回目のショップ「みずわ」の開店をいたしました。

今年は軽喫茶として、きつね、天ぶらのうどんとそば、焼きそば、炊き込みご飯、アイスクリーム、コーヒー、塩冶町の昭和堂さんからご寄贈いただいたクッキー100個、初回からご寄贈いただいている久多実の南目農園さんからの花苗150本の販売をしました。

またミニギャラリーとしてわんぱく学園校長の陶芸家安食ひろ先生のご指導のもと、子どもとの合作“宇宙人マイぐいのみ”やはし置きなどの陶芸作品展や販売もいたしました。

「今年も楽しみにきましたよ」「新聞やテレビを見て知りました」等2500余名という多くの方との出会いがあり、数多くの励ましの言葉に勇気づけられ、ありがたく思いました。

今回とても嬉しかったことは、支援を要する人12名が私たちと共に汗を流してくれたことです。初回より二回目そして三回目と回を重ねるごとに多くの方の雇用が出来、苦楽を共有出来たことは何よりも得難いことでした。

12名の彼・彼女らはお互いに、それぞれの持ち味を生かしながら、それをさりげなく黙って認め合う姿に、私たちは教えられました。ほんやりしている私に「○○して下さいね」と声をかけてくれたり、精一杯の笑顔で接客したり、真剣な眼差しで計算するなど、それぞれの役割を懸命に果たそうとする姿がありました。それは、美しくまぶしい程でした。

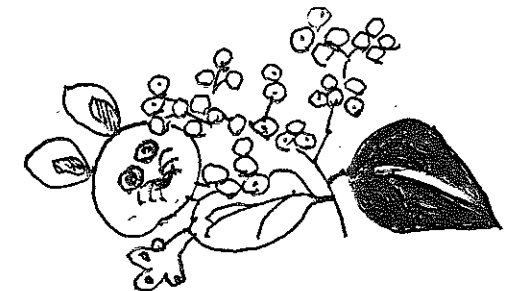
この3日間、彼・彼女らの姿で学んだことの一つ。それは、自らの責任で動き、答えを出すことでは……と。

12名の皆さんご苦労様でした。本当にありがとうございました！。ハンディをもつ人やそうでない人お互いが、出会いふれ合うことの出来る場は、お互いにとりとても得るものが多いように思うのは、私だけでしょうか……。

私たち(障害者そしてその家族)が社会に踏み出すためには、私たちの努力と地域社会の大きなネットワークが必要であると痛感しています。私たちが住んでいる出雲市にある社会・人的資源を有効に活用させていただきながら、地域生活で障害のある方が必要とする支援を実現させたいという熱い思いを持ち続け、決してあきらめない心で社会に踏み出そうと意を強くしています。

周囲の意識改革を促すには、ほそぼそでもいい……。安住せずに自ら流のやり方で行き出していくことが出来ればと考えています。

終わりにになりましたが、今年度も県立穴道湖自然館ゴビウス様に多大なるご尽力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。



## 👁️ 障害者の願い！！ 👁️

ここ数年、障害者福祉の流れは大きく変わってきつつありますね。自分でサービスを選べる「支援費制度」になったのは、平成15年4月でした。その制度がスタートしはじめ、月日が経つにつれ私は、その支援のあり方に何故か疑問を抱き、他県他市町村の友人に情報を得てみました。そこではっきりしたことは、悲しいかな地域により格差がみられたことです。“あ～無理もないことかな”と思ったのは、サービスの基準が決まっていないといった国の財政的な裏付けがみられなかったからです。不勉強な私には分からない色々な問題があります。が、全国共通なルールにどうしてしないのか？と、疑問を抱いていたのは正直なところでした。

皆さんもよくご存知の通り、先頃国会でその障害者施策を根っから改めることを目的にした、『障害者自立支援法案』の審議が、やっと始まりましたね。

知的、精神、身体それぞれにハンディを背負う3障害の方も住み慣れたところで安心して暮らせるようにとの考え方。3障害を一元化とし、国の財政的責任の明確化がありました。いわゆるサービスの利用量が予算を超過すれば、国が補正予算を組み負担し補うということのようです。

しかし、障害者に1割負担を求めていることに、親である私は大きな不安に思います。私の身の回りにも障害者基礎年金しか所得のない人がいます。我が子たちは、月に6万～8万円の障害年金に頼って生きています。障害者の暮らしの実態に応じた対応策を願いたいものです。あくまでも、障害者本人の収入に応じた負担を決め、家族などの負担にもならないことを願うひとりです。

低所得対策は充分なんでしょうか！。

そして、本人の収入を増やすためにも、社会参加いわゆる雇用の促進が大切であると私は強く思っています。

ハンディのある人の中には、仕事によっては私以上の役割を發揮出来る人もいます。そのことは、3日間のショップ「みずわ」を共にし、感じたことです。

介護保険利用などとの問題点等もあるように思います。私には、まだまだよく分からないことが沢山あります。が、決して法案の理念をお題目で終わってほしくないと思います。

障害者、そしてその家族の願いを親身になって真剣に受け止めて欲しい！！。「決める人は、私たちのことをよく知っとられるだらか？」  
ﾌﾟﾘｽ「おちらと」へ遊びに来てくれた未来ある彼女の声に“ハッ”とさせられました。ひとごとではないはずですよ。

ハンディある人(子ども)たちが、どう自立して生きていけるのか！  
、慎重な議論・みきわめをして欲しいと願わざるを得ません。

## ♪うれしかったこと♡

5月20日付『障害者施策で政府が推進協議会』という記事が目にとまりました。大変勝手ながら紹介いたしましたことお許し下さい。

政府は19日、昨年6月に改正された障害者基本法に基づき、内閣府に「中央障害者施策推進協議会」を設置した。～轡～同日付で、アテネ・パラリンピック水泳の7種目で優勝した成田真由美さんから委員30名が任命された。このうち12人が障害者、3人がその家族で、当事者が半数を占めた。～轡～(朝日新聞より抜粋)

◆6月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

6月 5日	鳶ヶ巣城跡山登り(担当 福田純姓) 雨天の場合「おちらと」 ・おにぎり 水筒 ※みんなでゴミ拾いしましょ
12日	笹巻きづくり(担当 原鞆姓・山口恵姓・三島幸姓・土江和) ※集合場午後3時・場所 ﾏﾌﾟﾘｽ「おちらと」 ・料費 300円程度・持ち帰りあり!!
19日	心の中爆発、絵を描いて遊ぼう!(担当 槇野巖巖長) ・場所 ギャラリー“ミチル”・料費 300円
26日	粘土でコネコネあ～そぼ! (担当 安食ひろ樹) ・場所 ﾏﾌﾟﾘｽ「おちらと」・料費 300円 ・野だて(“神の里”のお抹茶)も楽しみましょ?

集合時間 9時30分・集合場所 光人塾前駐車場(学園の隣) ﾏﾌﾟﾘｽ ﾏﾌﾟﾘｽ 土江62-2667)

[文責 土江和世]